



いとう



海援隊旗(二曳きの旗)

<http://www.ryoma-kinenkan.jp>

## 疾風 SHIPPUU KEISOU 勁草

記念館の仕事に携わって2カ月が経過しようとしている。この間、不慣れであるとはいえ、多くの関係者の方々や当館のスタッフには、少なからずご迷惑をかけ、また、色々とお手を煩わせる中で、新米館長を温かく見守って来ていただいたことに、心からの感謝を申し上げます。

### ここは 館長の部屋



高松 清之

#### 記念館休館の日程変更について

さて、当館を取り巻く状況に少し変化が起きてきたことを、ご報告申し上げます。これまで当館のホームページをはじめ様々な機会を捉えて、新館建設に伴う来年1月から1年間の休館をお知らせしてきたところであるが、先般、工事のスケジュールが変更となり、休館は来年四月からとなった。

これに伴って、現在空白となっている来年一月から三月までの間の「企画展示」の立案・準備作業をはじめ、同じ時期に予定している本館初めての試みである県外での巡回展との調整など、早急に検討を進めなければならない諸々の課題が浮上してきた。

就任直後の抱負として、前号で「記念館という小さくはあるが数多の方々大きな夢と希望を乗せて大海を行く船が、決して迷走することの無いよう、乗り組む仲間たちとともに、……愚直に前へ進んでいくことを旨としていき

い」と記したが、早くも、その実践が問われるようになった。

#### 今こそ 疾風勁草のとき

こうした状況の変化を前にして、今号の四文字熟語は、「疾風勁草」とした。

「疾風」は強い風であり、「勁草」は強い風にも折れることなく耐えていく強靱さを備えた草ということとで、困難や試練に遭ってはじめてその人の強さが分かるという意味の言葉のようである。

まさに、我々スタッフ一同が勁草であるかどうかを試される第一幕の幕開けである。

開館25年目を迎えて、これまでの入館者数は、380万人を超えており、リニューアルオープン後間も無く、節目となる400万人目のお客様を迎えることになりそうである。

再来年のリニューアルオープン、そして「幕末維新博」の第二ステージに向け、気を引き締めて前へと進んでいきたいと思う今日この頃である。

### 副館長 新任あいさつ

高知県立坂本龍馬記念館の副館長として4月1日付けで就任しました。就任後約二ヶ月が経過しましたが、初めての文化分野の仕事に戸惑いを感じ、自分のような素養のない者が勤まるのか日々自問しております。皆様の心温かいご指導とお知恵を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

記念館は県立施設ですので、いわゆる設置管理条例によって管理運営されています。条例の第1条には「坂本龍馬に関する資料を収集し、保管し、及び展示することにより、坂本龍馬の業績を顕彰する」と規定されています。

約一年間の休館の後、平成30年春には新たな記念館がオープンする予定となっております。条例の基本目的の実



岡林 孝太郎 副館長

現を目指して更に前進して、いかなければなりませんので、皆様のお一層のご支援、ご指導をいただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

### 日時計とともに25年 高知南ロータリークラブ

6月10日・時の記念日。毎年この日は、記念館南にある日時計を囲んで、高知南ロータリークラブの皆様がたくさんの園児たちと「時の記念日」行事を行っている。同ロータリークラブ発足30年記念に設置された日時計は、記念館とともに時を映してきた。「日時計例会」は25回目、記念館も25歳である。

さて、来年のこの行事。今年秋ごろから1年間の休館によって、八策の広場が閉鎖されるとどうなるのか。心配する声もある。しかし、そこはロータリーの行事担当者。「日時計のように休まず、工夫して来年も開催しますよ」。笑顔が頼もしかった。前田 由紀枝



日時計の前で田内 芳仁会長の話聞く園児たち

新企画展スタート

# 「龍馬の評価」展

—坂本龍馬の実像は?—

平成28年7月2日(土)～11月4日(金)

## 【趣旨】

現在龍馬は、日本史の中で英雄の一人として、多くの人に認識されている。しかし、資料が少なく、後世に作られた話も多いため実像は掴みづらい。また、龍馬は明治以降、多くの人に理想を重ね合わされてきた。自由民権期には自由の先駆者として、日露戦争から太平洋戦争までは海軍の守り神として、現代では平和主義者として捉えられてきた。どれも間違った龍馬の姿ではないが、誇張された面も否めず、本当の龍馬が分かりづらくなっている。

そこで本展では、龍馬と面識のある同時代の人たちの龍馬評をパネルで紹介する。先生である勝海舟や親友の三吉慎蔵、妻のお龍らは龍馬をどのような人と見ていたのか。同時代の人の言葉なら正確な龍馬の実像が分かるはずだ。そして、それらの人々に関連する資料を所蔵品の中から展示し、龍馬評を残した

人物についての理解も深めてもらいたい。  
三浦 夏樹

## 【龍馬評】



「龍馬はソレはソレは妙な男でして、まるで人さんとは風違つて居たのです。」(お龍)



「坂本龍馬、彼れは、おれを殺しに来た奴だが、なかなか人物さ。その時おれは笑つて受けたが、沈着いて、なんとなく冒しがたい威権があつてよい男だったよ。」(勝海舟)



「大兄(龍馬のこと)は心の公明と御量の寛大とに御任せ成され候て、兎角御用捨これ無き方に御座候得共。」(木戸孝允)

## 新シリーズ『桂浜・浦戸 碑めぐり』①

### 大正龍馬ファンの熱い思い

# 『坂本龍馬彰勲碑』

記念館や龍馬像のある桂浜公園の周辺には様々な石碑が建っています。これから館の職員が実際に足を運び、石碑建立のいきさつや間近で見えて感じたことなどを紹介していきます。スタート第1回は、坂本龍馬の顕彰碑です。AR動画と併せてご覧ください。

桂浜公園の中央、とさいぬパークを左手に見た階段を上るとテラス台地と呼ばれる開けた場所に出る。右手の急な石階段を上れば坂本龍馬記念館へ続く遊歩道、左手のゆるやかな坂道を上ると龍馬像が見えてくる。坂道手前の左側には小さな松林があり、その奥にひっそりと「坂本龍馬先生彰勲碑」と書かれた石碑が建っている。



日付「高知新聞」によると、この石碑は熱心な龍馬ファンであった末延元吉の呼びかけにより大正4年に建立されたのである。元吉は石工(山から石を切り出し加工をする職人)で、全国各地に石碑を寄進している。大正2年春、龍馬への熱い思いを抑えきれなくなった元吉は高知を訪れた。ところが高知には龍馬を拜める記念碑のようなものがどこにも見当たらない。元吉は市役所を訪ね、高知に坂本家の本家「才谷屋」末裔の坂本源三郎がいることを知った。そして源三郎に石碑の建立を相談、その熱意に心を動かされ

石碑と言うと自分の背丈くらいをイメージしていたが、高さ3メートルはあるだろうか。上部は、龍や波のように見える彫刻で飾られている。前面には土方久元の龍馬を引う七言絶句と板垣退助による撰文、裏面は建立に関わった人々の名が丁寧に刻まれていた。側面には削り出したままのような荒さが残る。大正5年(1916) 11月17

尾崎由紀・宮崎圭子



飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!

視聴方法は簡単!

- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
- ② アプリを起動し、マークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。

※本コンテンツは2016年9月30日まで閲覧可能です。



2017年県外巡回展

# 「土佐から来たぜよ!『坂本龍馬』展」

担当者リレーエッセー②

## 熊本・熊本県立美術館

熊本日日新聞社論説主幹  
高峰 武



# 「土佐の龍馬」を迎える「肥後の龍馬」

「龍馬が肥後にやって来た」、どや、面白いだろ。一年ほど前だろうか、坂本龍馬記念館長(当時)の森健志郎さんから突然、こんな電話をもらった。話は、2017年、坂本龍馬記念館が新館建設のため休館する期間、熊本で巡回展ができないか、という相談だった。森さんからの提案だ。一も二もなかった。

### 幕末維新・肥後の人材

何より、熊本は龍馬が足を運んで話を聞き、影響を受けたとされる横井小楠の地である。

肥後・細川藩は西南の大藩だったが、「薩長土肥」が主導した明治維新に乗り遅れた上、1877(明治10)年には官軍と薩軍の戦場となり、熊本城も灰じんに帰した。こんなこともあり、熊本は明治維新にはやや屈折した感情が生まれる土地柄だが、時代の時間速度にまったく鈍かったわけではない。吉田松陰の兄貴分的な存在だった宮部鼎蔵(池田屋事件で自刃、1820〜64)などもいた。

中でも、その識見において際立っていたのが横井小楠(1809〜69)である。藩校時習館時代から一等拔き出た存在だったが、酒の上での失敗も多く(それが個人的には愛すべき

ことと思うのだが)、熊本で重用されることは少なかった。

しかし越前・福井藩の松平春嶽の政治改革に協力する中で、時代を見通す目の確かさが知られることとなり、維新後も明治政府の参与となったが、京都で暗殺された。龍馬が凶刃に倒れてから二年後のことである。

### 横井小楠と龍馬

小楠は身分制度にとらわれないうちに実際に役立つ学問、「実学」を唱えた。当時の熊本藩は、保守佐幕の学校党、尊皇攘夷の勤王党があり、実学党は藩内政治的にはその中間的な位置ではあったが、「富民」の実現を目指すことをその目標とした。

小楠は1860(万延元)年、開国通商、殖産興業、富国強兵の必要性を説く「国是三論」を著し、幕府に「国是七条」、越前福井藩に「国是一二条」を建議、時代の先頭を走った。「外国と対等になるためには、積極的に開国し殖産興

業や貿易で国力をつけるべきだ」。現代風に言えば、「通商国家」とでも呼べる国家プランで、龍馬にすれば小楠の話は、思わず膝を打つような納得感があったのではないかと。熊本城の近くに高橋公園があり、そこに小楠を中心に、坂本龍馬、勝海舟らを配した維新群像がある。「土佐から来たぜよ!『坂本龍馬』展」の会場になる熊本県立美術館も目と鼻の先だ。



熊本城近くの高橋公園にある「維新群像」。左から坂本龍馬、勝海舟、横井小楠。後方には熊本地震で崩落した熊本城の石垣が見える。

### 地震から「再生」へ 前進する熊本

それにしても巡回展を楽しげに語っていた森さんの不在は何とも寂しい限りである。

森さんと出会ったのは1990年代の中ごろ、東京だった。私は熊本日日新聞、森さんは高知新聞。東京には各新聞社の支社があり、お互いその編集部門の責任者だった。ともに社会部の出身で理屈よりも体が動くタイプ。何より、人が好きだった。酒は飲まなかったが、酒を飲む私らと同じペースでメートルを上げていった。ああいう芸当はなかなかできないものだ。怒る時は、文字通り目が三角になった。とにかく一生懸命の人だった。

この原稿を書きながら、突然、森さんからまた電話がくるような気がしてきた。もし電話があれば、今年4月の熊本地震で横井小楠の自宅「四時軒」が壊れ、自慢の熊本城も深手を負ったことを伝えねばなるまい。震度7の地震の震源地の上がまさに「四時軒」だった。それでも2017年春の巡回展を予定しましたよ、森さん。小楠も龍馬も応援してくれるでしょう。小楠や龍馬が前を向いたように、私たちも再生へ次の「一歩」を踏み出します。

巡回展は、各地新聞社・放送局も主催します。

# プロローグ

「浦戸」この地に秘められた歴史は重い。

その黎明は住民漁撈の港であろう。古代は土佐の庸調集積基地、運調船出港地として本格化したのである。934(承平4)年、国司の任を終えた紀貫之、国府を出て「今宵浦戸に泊る」と『土佐日記』にこの地を伝え、宇賀神社は、糠塚、手結山の火の逸話とともに宇賀長者伝説を伝え続ける。

中世は漁港、商業港として発展、1233(貞応二)年北条義時の命で、浦戸の篠原孫左衛門は、薩摩の坊津、摂津の兵庫の代表らと『廻船大法』作成と言う。南北朝期、『佐伯文書』は北朝方の津野・三宮らは、南朝方水軍の拠点浦戸を攻撃と重要港での戦を記している。また土佐沖は勘合貿易の航路、暴風時などには浦戸に難を避けた船も多かるう。



桂浜を見渡すテラス台地に建つ「桂浜」碑

戦国の世、浦戸は脚光を浴びる。本山梅慶は海と平野を求め本山から朝倉に出、春野、浦戸まで占拠するが支配は20年と短期であった。本山氏を駆逐した長宗我部氏は、1591(天正19)年頃浦戸に城を移し、種崎・御畳瀬とともに土佐水軍の拠点とした。小田原や朝鮮への出兵もここからであり、『長宗我部地検帳』はかな

りの集落を数えている。イスパニア船サンフェリペ号の漂着は、長崎での二十六聖人の殉教や、鎖国にまで繋がった。長宗我部氏が城も約10年、国は没収され最期は一領具足達の浦戸一揆であった。しかし273人の死者で潰滅。土井晩翠の「忠魂不滅」の詩碑や記念碑、供養の六体地蔵が悲運に倒れた一領具足の痛恨を慰めるかのように建っている。花海道に並ぶ15面の長宗我部ステージのガイド標識もその盛衰を語る。磯崎には長宗我部元親の別荘とも言われる観海亭があった。安土桃山の建築様式を伝え、藩主参勤の時には亭に入り、海路の日和を待ちながら清遊したともい

1928(昭和3)年5月27日、海上には駆逐艦「まかぜ」、陸には地元44連隊の兵士も迎え、桂浜龍頭岬に坂本龍馬の銅像が除幕された。歴史は今も連綿と刻ま



土佐史談会会長 龍馬学会理事 宅間 一之

東吉野村  
工ッセイ  
⑥

## 東吉野村の刀匠 『河内 國平』



奈良県東吉野村 教育委員会 教育長

峠 隆 司

平成28年4月29日から3日間、大阪城天守閣前本丸広場において、大河ドラマ「真田丸」の舞台「大阪城ファミリーフェスティバル2016」が開催された。



大阪城天守閣前 本丸広場での鍛刀風景

なぎなた演武や火繩銃演武、「真田出陣太鼓」演武等に加え、「鍛刀実演」が刀匠の河内國平氏と5人の弟子達により繰り広げられた。夕方5時から6時過ぎまでは、國平氏による日本刀の制作工程の説明が行われた。

刀の原料である玉鋼たまがねを始め、制作過程の物をひとつずつ提示しながら、作業で一番難しいところや気をつけなければならぬことなどを、時にはユーモアを交えながら、周りにいる300人あまりの観衆に分かり易く説明した。

日も沈み少し薄暗くなりかけた頃、いよいよお待ちかねの鍛刀が始まった。天守閣前には仮設のふいごをはじめ簡易の鍛刀場が設けられており、おもむろに片膝をついた國平氏が座り、

ふいごに風を送りはじめた。同質の鉄であらかじめ作っておいた台の上に、柔らかい鋼と硬い鋼をのせる。それを赤くした炭の中に入れ、取り出すと右手に持った鉄槌でたたいて少しずつのばし、再び紫色に燃える炭の中に差し込むとふいごの風を更に強めた。

河内 國平 (かわち・くにひら)

しばらくして、鉄槌を数回たたくと、弟子が大きな鎚を持って待ち構える。國平氏の「行くぞ」という力強い合図で、二人の弟子が交互に大きな鉄槌を力の限り振り下ろす。そのたびに静寂の中大きな音とともに、閃光が走り火花が辺り一面に飛び散った。その瞬間、すぐ近くで鍛刀の実演を見ていた多くの人から、驚きの声と共に大きな歓声が上がった。

昭和16年大阪市生まれ。関西大学法学部卒業。末永雅雄、宮入昭平、隅谷正峯に師事。奈良県東吉野村に鍛刀場を開いた。平成18年に鑄鉄七支刀を制作。平成22年「現在の名工」に選ばれる。平成26年新作名刀展で、刀部門では18年ぶりに刀剣界最高位の正宗賞を受賞。同年黄綬褒章も受章。現在は東京芸術大学非常勤講師、関西大学文学部非常勤講師を兼ねる。「出来る必ず出来る」と信じて「途に仕事を打ち込む河内國平氏。現在も東吉野村に暮らし、職人として、鍛刀とともに人間としての、在り方を伝えている。



今久保 約雄

# 「脱藩途上で散った志士・中島與市郎」

明治維新後、新政府は「薩・長・土・肥」と順位を付けて、各藩に論功行賞という名誉を与えた。土佐藩は草莽の志士たちを多く輩出し、その志士たちの功績がその後の土佐を支えてきたであろう。しかし維新の夜明けを見ることもなく、異郷の地に骨を埋めた志士たちも多い。そこで今回は、脱藩の無念を感じつつ逝った一人を取り上げる。

## 水の峠での感慨

元治元年（1864）11月20日、高岡郡新居郷（現・土佐市）の中島與市郎（23）は、従兄弟の中島作太郎（18）と親族の細木元太郎（27）の三名で、佐川・越知を越え、予・土州国境を西へ走った。冬の厳寒期、佐川の同志五人の脱藩を知つてのことだった。

與市郎は郷士・中島曾平の次男。元太郎は、庄屋・細木繁蔵の長男で、祖父は「天保庄屋同盟」指導者の一人細木庵常であった。

私は数年前、彼らの足跡を辿り、予土往還の一部を歩いた。途中、池川の水の峠に着いたとき、池川の町を遙か遠くに見ながら、三人のことに思いを馳せたものだ。

「時勢に遅れるな」「同志に遅れをとるな」。その言葉を原動力として彼らは時を急いだのであろう。幕



與市郎が隠れていたお堂と自刃場所＝吾川郡仁淀川町池川・水の峠

乱闘になり、逃げるように水の峠のお堂に隠れたのである。しかし、尾行の捕吏が打つ灰弾を受けて目が眩み、「もはやこれまで」と自刃した。脱藩二日後のことである。私は、脱藩途上の若い命がこの峠で散った無念を嘯みしめた。

## その後のこと

さて、中島作太郎と細木元太郎は松山領から長州へ渡り、長府で尊攘派公卿・三条実美らの守備役についた。

その後作太郎（のち中島信行）は、龍馬の海援隊で活躍。明治には神奈川県令などの要職を歴任し、自由民権家となる。第1回衆議院議員選挙で神奈川県から初当選、初代衆議院議長となった。駐伊特命全権公使を経て男爵となり、明治32年（1899）54歳で没。従四位。

## 一人自刃した與市郎

與市郎は、水の峠を過ぎ、雑誌山の雪道で不覚にも足首を捻挫した。作太郎の助けで伊予領の民家まで辿り着くも、歩行が困難だったため、二人と別れて名野川郷まで二里半を引き返す。そこで番所に自首をしたが、横柄な郷役人と

細木元太郎は長州で高杉晋作率いる遊撃軍や神機隊に入り、長州一円の激戦に参加。戊辰の役では因州軍山国隊に属していたが、手に銃弾を受



與市郎の眠る中島家墓所の入口＝土佐市新居カロト山

けて負傷。その後脱藩罪を許されて、土佐の迅衝隊として会津攻撃に加わったが、維新後の論功行賞とは無縁だった。明治37年（1904）67歳で没した。

さて、與市郎のことである。没後20年のとき、中島信行（作太郎）の尽力によって埋葬された水の峠から故郷・土佐市新居に帰ってきた。墓碑には、信行撰、妻・岸田俊子書による哀悼文が刻まれている。中島家の墓所は、同市カロト山入口の階段を上り詰めた所があり、入口には與市郎の碑も建つ。今、風化を防ぐコンクリート製の屋根に守られた墓で、與市郎は静かに眠っている。

# 拜啓 龍馬殿

59通

平成28年3月21日～6月20日



### 「グッときたぜよ！」

私は来たる四月より、新社会人として働き始めます。貴方が夢見た世界という舞台で、日本男児として勝負し輝いてみせます。どうぞ見守っててください。グッときたぜよ！と言わせてみます！！

(3月25日 兵庫 M・F 22歳 男性)



### 「仮面ライダー」

長男は幼稚園の年長です。仮面ライダーゴーストのアイコンで「リョーマ魂」があり、坂本龍馬が実在の人物であることに喜び、興味を持ちました。ぜひこの博物館に行きたいと毎日せがまれて、岡山から車でやってきました。私も本(マンガ)を読み興味を持ちました。手紙好きなこと、ジョン万次郎のことなど。息子は戦国武将にも興味を持ち始めました。もちろん龍馬のピストル、剣、びよっぴなど、龍馬のことも大好きです。そんな息子の成長を頼もしいと感じ嬉しです。

(3月27日 岡山 K・O(6歳・男子)の母)



### 「気持ちあらたに」

志を持つことの重要性を改めて痛感しました。大きな海のごとく、目の前の事はかり気にせず、全体での良い事になるよう周囲との協調を大切に人生を歩むことを確認した日でした。前を向いて歩きます！！

(3月27日 千葉 H・I 45歳 男性)



### 「日本を良きモノに」

お元気ですか？ご無沙汰して

います。先ほど桂浜に立つあなたの雄姿に会ってきました。今日は家族3人…主人と小学校6年生になる息子、そして私で訪ねてきました。中学生の頃、あなたの活躍を知り、本を読み(「龍馬がゆく」は何度も読み返しています(テレビを観て、マンガを読み(「お〜い龍馬!」最高です)、そして大好きなまじや…福山くんの大河「龍馬伝」を観て、益々大好きになりました。あんな想いをして日本を良きモノにしていることしたあなたに恥じないよう生きていきたいと、又、心強く思いました。日本って本当に良い国にしているか、ないといけませんよ。頑張ります!!

(3月31日 兵庫 M・M 49歳 女性)



### 「龍馬に聞きたいこと」

子どもころはなにをしてあげましたか。「ほんすきだったあそびや人やたべものはなにですか。わたしは今だとパンがすきで、おにいちゃんとおいぐるみやブロックであそぶのがすきです。たまに、おにいちゃんとおわしてむかしのことを本やすぐろくで学びます。外であそぶときはドッジボールやなわとびやうんていやてつぼうやジャンガリズムやのぼりぼうなどであそぶのがすきです。りょうこもすきです。とくになすとこうちにいるのがすきです。いえは東京にあります。学校はもも井だいい三小学校です。プランコはないけど、すべり台があります。そしてむかしのことが大好きです。

(4月2日 東京 M・M 7歳 女子)



### 「龍馬に感謝」

長年の夢であった土佐に家族と共にようやく訪れることができました。ここには貴殿の像があり、貴殿の手紙があり、心の源泉があります。桂浜での荒海のかたに貴殿は新しい世界と人とそのなりわい、そして人として人たらしめる制度というものを見ていたように思います。貴殿のように遠くを見て、ありのままを寛容とユーモアで受け止めることは、人間修行が足りず、貴殿に倣えることになってもかたないません。龍馬さん、貴殿のお蔭で今日の家族平穏の日常があります。ありがとうございます。

(4月3日 福岡 Y・T 64歳 男性)



### 「屋上からの景色に感動」

ここへ来るのは2回目です。以前は高校2年生のときでした。この記念館の屋上の景色に感動し、またここに来たいと思いました。今日再びここに来ることができ、うれしく思います。龍馬さんのことは大河ドラマ「龍馬伝」を見て興味を持ちました。龍馬さんは罪を犯してもこの日本を変えようと尽力し、薩長同盟や船中八策の作成といった偉業を成しとげまし



動画配信!

**飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!** 視聴方法は簡単!

① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード ※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。  
 ② アプリを起動し マークのついた写真にスマホをかざす ※本コンテンツは2016年9月30日まで閲覧可能です。



## ご子孫たちも来館 『海を渡った龍馬たち』展を振り返って

今年度当初から始まった同展は7月1日で終了。龍馬の北海道開拓への思いとともに、北海道に渡った子孫たちを紹介。血筋に流れる理想と反骨を紹介した。その開催期間中には、坂本家ゆかりの方たちも遠路お越しくださった。

郷土坂本家八代目で、農民画家・坂本直行の三男・中原正博さんご夫妻は、ゴールデンウィーク中に来館された。中原さんは幼い頃に親戚・中原家の養子になっている。今回の企画展に合わせ、父・直行から贈られた絵画18点(油彩画9点、水彩画9点)をご寄贈くださった。会場を彩った絵画の豊かさ。野花の絵は六花亭(帯広市)の包装紙でもおなじみである。

中原さんは「自宅で見るのと違って、新しい絵画に出会ったようです。記念館での展示を通じて、長く父の絵が愛され活用していただければうれしい」と話された。また、「伯父の絵を見たい」と、北海道から来てくださったゆかりの方たちもいた。



企画展会場での中原正博・紀枝子ご夫妻

直行の日高山脈を望む十勝原野の油彩画には、北海道でも見ることでできなくなった風景がある。それは、美しいがゆえの北の大地の厳しさを感じさせる。そこに向かおうとした龍馬やその資料、実際に渡って行った坂本一族の生き様を、入館者はじっくり味わっていただくように感じた。

前田 由紀枝

た。そして将来は家族と世界旅行をするという夢をもっていたのでしよう。私も龍馬さんのような偉業を成せなくとも、家族や仲間を大切に、大きな夢をもって生きていきたいです。

(4月4日 鳥取 H・M 20歳 女性)



### 「念願かなって」

おはようございます。南国土佐は遠いですよ。私はやっと71才になり、願いがかなって旅にできました。龍馬記念館のガラス窓から太平洋をながめ、龍馬さんのことを学んで考えています。幸せな時間です。四国を3泊4日の旅ですが、とても待っていた旅なのでうれしいです。四国は文化があつて「おもてなし」が心に届きます。ありがとうございました。学んで考える事とても大事ですね。

(4月11日 愛知 S・S 71才 女性)



### 「会いたい！」

やっと会いに来ました。会いたい！会いたい！思っていた貴男。やさしい目に今日会えました。遠くを見よう。私も今日から遠くを見つめ、大きな太平洋の向こう、日本も世界も含めてネ。みんな幸福になる様な道を。又会いに来ます。

(4月12日 愛媛 N・K 68歳 女性)



### 「龍馬のような青年」

貴方に会いたいと思いつながら、60才を過ぎてやっと実現しました。実は昨日、高知に向かう国道で貴方を思わせる青年にめぐり会えたのです。その青年はなんと竹馬で日本一周をしているらしく、その理由をたずねました。青年いわく「今の日本にも、又、自分にも明日が見えない。一度、自分の可能性を見きわめたい」と云う。まだこの恵まれた日本にもこんな青年がいるんだと嬉しくなりました。龍馬先生の地でとてつもなくゆかいな青年に会った

話です。

(4月21日 和歌山 T・U 64歳 男性)



### 「毎年恒例」

今年も来ることができました。龍馬さんのように海外に飛び出たいと思っていた娘も、フランスで彼を見つけた今、二人仲良く暮らしています。今回は職場の先輩方二人を案内してやってきました。天気もよく、すてきな桂浜を見せられてうれしです。退職まであと2年。春と秋に龍馬さんに接近するのを楽しみにがんばりたいと思います。また新たな龍馬ファン、高知ファンをつくり誰かを案内していきます。2010年から通っています。

(4月23日 東京 C・E 58歳 女性)



### 「龍馬が大切にしたいもの」

もしあなたがこの現代の日本国で生きておられたら、この流れ、時勢をどのように感知し、どのように思われたであろうか。あなたが不幸な形で没されて早や500年という時間が経過してしまつた。確かにあなたが想像すらしなかつたであろう便利な道具、科学技術の発達、ものすごい勢いのグローバル化、テクノロジーなどが現代日本人の眼前に現とある。しかし一方で、あなたがもつとも大切にしたいものが、人の魂の揺さぶりといったものが、どんどん失われているように思えてならない。どうか龍馬さん、天より我々に對し、これからも厳しく暖かく、ただ広いまなざしを送ってください！

(5月3日 大阪 A・T 49歳 男性)



### 「龍馬が見た景色を」

こんにちは。初めてお手紙を書きます。小学校6年生の時、司馬遼太郎さんの『龍馬がゆく』で初めて坂本龍馬について知りました。本屋さんの伝記では、あなたのことは、あなたが日本のためにやったこと、幼少の頃

に泣き虫だったことしか書かれていなかった。あまり興味がありませんでした。でも『龍馬がゆく』を読んで龍馬の人物像、どんな友人がいて誰を好きになったか、どこを歩いたかなどくわしく知っていくうちに、私もあなたが見た景色を見たと思うようになって、中学2年の夏、やっと来ることができました。あなたはずいい人だと思ひます。天国で幸せにしてくだらういいなと願っています。

(5月4日 鳥取 S・Y 13才 女子)



### 「ハーレータビッドソンで」

GWは仕事でした。その代わりとして4日間の休みを取り、貴殿の横顔見たさに神戸より馳せ参じました。貴殿が思い描いたであろうアメリカ。その国のハーレータビッドソンで神戸より参りました。今日は桂浜荘に宿泊し、明日は松山へと向かう所存です。貴殿が見た太平洋を見ながら、種々考え事をしたいと思っています。そして又いつか貴殿に結果を知らせに來たいと思っています。

(5月13日 兵庫 H・T 59歳 男性)

### \*\*\*編集者より\*\*\*

仮面ライダーゴースト？アイコン？リョウマ魂？どれも初めて聞く言葉ばかりですが…、大好きなヒーローをきっかけに6歳の龍馬ファン誕生です。これからも、龍馬や歴史に興味を持って学び続けて欲しいと思います。自分の“人生のお手本”にしたいと思う人物がいることは、様々な状況に直面したときにヒントやパワーをもらえる、そんな気がします。 尾崎 由紀

## 学芸員の視点

# 『被災資料の安定化処理』

亀尾 美香

2011年3月、多くの人々と建物を襲った東日本大震災の津波は、公文書や歴史資料、文化財をも押し流した。流されたきり行方不明の資料もあれば、幸いなことに発見されたもの、流出を免れたものもある。しかし、泥や油などさまざまな物質の混じった海水に漬かった資料は、放置するとカビが生えて腐り、金属は錆び、最終的には朽ちて失われてしまう。こうした資料から汚染物質を取り除き、長期にわたり安定した状態で保管できるようにするのが「安定化処理」である。東日本震災では、現地の学芸員が予期せぬ災害のなか、目の前にある資料を必死で救う過程で、安定化処理のノウハウが培われてきた。この技術を実際に見て体験できる機会に恵まれ、3月に名古屋市立博物館でおこなわれた安定化処理ワークショップに参加した。

講師には岩手県立博物館および陸前高田市博物館の学芸員が招かれ、講義と実演がおこなわれた。被災資料は膨大な数にのぼり、材質も紙・木材・繊維・金属・動植物(標本)など多岐にわたる。適切な処理方法は材質によって異なるが、水洗いのできる紙資料(古文書類)については、ほぼ処理方法が確立されている。

実際に紙資料の洗浄作業を体験した。資料は一枚ずつ解体し流水で洗浄・殺菌後、保護紙にはさんで刷毛で洗浄する。その後超音波洗浄器にかけ、塩分濃度が基準値以下になったら脱水・乾燥させる。ほとんどが手作業でおこなわれ、膨大な時間と手間を要する。この間、処理を待つ資料は劣化を防ぐため冷凍庫に保管されるが、陸前高田市ではまだ30万点もの資料が未処理であるという。

このさき高知も助ける側と助けられる側、どちらに置かれても不思議はない状況で、資料を扱う立場として知っておくべき貴重な情報を得ることができた。



トレイに張った水のなかで保護紙にはさまれた資料を洗浄

## ■ 感慨無量だった「森館長との10年」展



5月8日から3週間開催した「ほいたら待ちゆうぎ」森館長との10年展(第108回)は、多くの方々の様々な思いを残してあっという間に終わった気がします。

会場には「一筆啓上(昨年11月15日、イベント・レッツゴーハンドインハンド開催時、龍馬宛てに書いて頂いた手紙)」「拝啓森館長殿(森前館長に宛てたメッセージ)」そして10年間を駆け抜けた40枚以上の写真を展示しました。

写真の中の森前館長は、来館者それぞれに語りかけたようで、涙ぐむ方もいらっしゃいました。また初来館の県外女性の方は、この展覧会で初めて森前館長に触れ、その人柄と記念館に興味を持たれ「また遊びに来ます!」と帰って行かれました。生前から森前館長をご存知の方やこの展覧会で初めて知った方も、心に届いた何らかの思いが、更なる記念館への関心に繋がってゆく展覧会になったと実感しました。



5月「ほいたら待ちゆうぎ」森館長との10年展

## ■ 寄贈・寄託品のすばらしさ



6月「海見える・ぎやらしい寄贈・寄託作品」展

6月は、高知県立坂本龍馬記念館「海見える・ぎやらしい寄贈・寄託作品」展(第109回)を開催しました。海見える・ぎやらしいも11年目を迎え、その間、ご寄贈ご寄託頂いた作品の中から25点・13名の作品を展示しました。

油絵・書・現代俳画・水彩・写真・ポトルシップ・ガラス・イラスト・日本画など現代に生きる作家達が、幕末に生きた龍馬の存在を独特のスタイルで表現した作品群でした。前回(2011年)の「寄贈・寄託展」以降、逝去された作家の方もいらして感慨深い開催ともなりましたが、展覧会を通して様々な作家の方や作品との出会いがあり、109回目を迎えることが出来ました。これからもより感動と驚きの出会いを、皆様にお届けしていきたいです。

## ■ これからの展覧会

さて、これからの7月・8月は「幕末の志士人気ベスト10」展(第110回)。来館者アンケートから幕末に生きた人気人物のベスト10を発表します。今回も「現代に志士達が生きていたら何をしている!？」というテーマで、志士達の職業をイメージして描いて頂いた楠本剛氏のイラストと共に展示します。

7月を「現代に生きる志士達」、8月をプラス「現代に生きる志士達番外編」と名付けて、惜しくもベスト10入りは出来なかった志士達も、「現代ではもしかしたらこんな感じ?」と言うところをご覧ください。果たして皆さんはどんなイメージを持たれるでしょう、そして2015年の結果は?



7月8月「幕末の志士人気ベスト10」展(2015年展覧会より)

9月は「石見陽奈個展“とおくをみる”」(第111回)を開催します。石見さんば「海見える・ぎやらしい」で初の展覧会となります。常に未来を見ようと、遠くを見すえていた龍馬の目線を考えながら、主に日本画材を用いて描かれた桂浜の海やその他風景画約10点を展示します。新たにイメージされた龍馬の世界、どの様な作品が並ぶか楽しみです。ご期待ください。中村 昌代

## 入館状況

2016年6月20日現在(開館以来8,941日)

- ◆総入館者数 3,839,716人
- ◆最多入館 (2010年5月2日) 6,686人
- ◆最少入館 (2004年10月20日、台風のため) 8人
- ◆2016年度最多入館(2016年5月4日) 2,098人
- ◆2016年度最少入館(2016年4月28日) 99人

## 編集後記

前号発行後まもなくの4月半ば、熊本に直下型大地震が起こった。現地の恐怖はいかばかりか。いまだ多くの方が被害と不安の中にいらっしゃることは他人事ではなく、心が痛む。衷心よりお見舞い申し上げます。そんな中、熊本日日新聞論説主幹の高峰さんから、巡回展のリレーエッセーを寄せていただいた。熊本の方たちの力強さと誇りを感じて、うれしい。

また、今号から新しいシリーズが2つ始まった。記念館が建つ浦戸・桂浜界隈に関わるもので、歴史研究者・宅間さんと、当館スタッフが担当する。改めて、浦戸界隈にある歴史と人々に思いを馳せる。シリーズはしばらく続く。

新館建設、既存館リニューアル工事に向けて、皆様にはご迷惑をおかけする。だからこそ、記念館の使命とは何か。深く考えなくてはならないと思うきょうこの頃である。(ゆ)

館だより「飛騰」第98号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏

発行日 2016(平成28)年7月1日  
発行 公益財団法人高知県文化財団  
高知県立坂本龍馬記念館

〒781-0262 高知市浦戸城山830  
TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015  
http://www.ryoma-kinenkan.jp  
「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円・高校生以下無料

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名  
高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

## 休館・リニューアルオープンのお知らせ

龍馬記念館は新館増築・既存館改修工事のため、平成29年4月から約1年間全面休館いたします。リニューアルオープンは平成30年春を予定しています。



小島 博明

## 龍馬暗殺の謎・黒幕は誰だ？土佐藩犯人説への考察（上）

# 「龍馬と後藤象二郎」

私のテーマ

来年は龍馬暗殺から150年となる。

坂本龍馬暗殺の実行犯は「見廻組」である、と断言しても良いだろう。しかし、彼等に暗殺を指示し命令した者、又は情報を流した黒幕は誰なのか？慶応3年11月15日の犯行当時より、色々と討議され論争的となったが、今だ判然としない。そこで、私なりの考察を述べたいと思う。

### いろは丸事件賠償金をめぐって

黒幕の容疑者は数多く居るが、その中に土佐藩の後藤象二郎説がある。その根拠として『大政奉還』の手柄を一人じめにする為とあるが、今では、この説を支持する人は少ない。私もその中の一人である。

だが昨今、浮上してきた疑惑がある。それは「いろは丸事件」の賠償金の問題である。この当時、土佐藩は購入した蒸気船や小銃等兵備の膨大な額の借入金返済に苦慮していた。そのうえ、「イカルス号事件」の嫌疑が『土佐海援隊』に向けられると、「薩英戦争」の二の舞を恐れた山内容堂（前土佐藩主）は、賠償金五万両の支払いをパークスと密約した。そこで紀州藩よりの賠償金を『土佐商会』が受領し、その返済に充当しようと考えていた。

紀州藩は慶応3年10月10日、

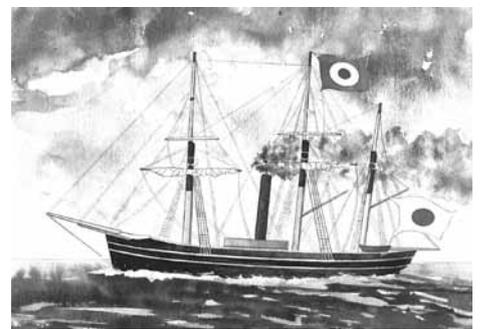
長崎に岩橋輔ら三人を派遣し、立会人である薩摩の五代才助を介し『土佐商会』に賠償金の再交渉を求めた。応対した岩崎弥太郎は、自分はその立場にないので、後藤象二郎を交え改めて交渉しようとする場を繕った。

後藤は『大政奉還』成立後、京都にいて着々と交渉準備を進めていた。そのため部下の岩崎弥太郎を同月18日、土佐藩船夕顔で長崎から大坂に向かわせた。後藤は、龍馬ら『海援隊』を紀州との交渉に立合わせるつもりは無かったのである。

### 後藤象二郎の動き

一方龍馬は、紀州側との交渉を海援隊で行うつもりだった。岩崎が長崎を出た18日、龍馬は後藤に対し、中島作太郎を賠償金交渉のため長崎に派遣するので、費用として十五両を用立ててほしい、と依頼している。参政・後藤の立場で考えれば、それを阻止する事は容易であったが何故か停めようとはせず、中島に金子を手渡したのである。

後藤が阻止できなかった大き



いろは丸。マストの蛇の目紋は大洲藩旗=カット画・和田通博

な理由は、『いろは丸』の賠償交渉にある積荷五箱の中身、ミニエー銃四百丁が頭から離れないからだ。積荷の目録には、用物箱五箱とのみ記してあり、中身の記述はない。実際は山内容堂の上洛に際し随行する藩士、百数十人の御用としての鯉節や昆布等の海産物であった可能性が高い。

銃については、龍馬や弥太郎が積荷の代価を吊り上げる為、とうさに思いついた虚言であったのだ。後藤は、この事を知らされていたにもかかわらず、土佐藩参政の立場に有りながら黙認したばかりか肯定し、関与していたのである。

この偽装工作には英国商人グラバーや立会人である薩摩の五代才助までも荷担していたのである。事実、同年6月3日に後藤は、積荷の小銃四百丁の代価を心配する五代を説得する様、龍馬に指示している。（近年行われた『いろは丸』の数回に及ぶサルベージ調査でも小銃四百丁の痕跡すら確認できないという。）

しかし、紀州藩は徳川御三家の一つであり事態が『王政復古』武力討幕となった場合、当然、敵国となる国であり、仮想敵国なのだ。だから、後藤らの行為には、

### 秘密を共有した後藤と龍馬

このように後藤象二郎は坂本龍馬と大きな秘密を共有する事となった。

しかし、龍馬と土佐藩参政である後藤とは立場が違う。万が一、この偽装工作が紀州側に露呈すれば大事になる。『いろは丸』賠償金の一件は御破算となるは無論の事、この身が失脚するばかりか、容堂公の御顔を潰し、土佐一国も世間の笑い者になるであろう。切腹ものだ。

この場合、立場の軽さが龍馬の最大の武器である。後藤は龍馬を利用する立場として、紀州との交渉前に、龍馬とやり合おう事が出来なかったのである。後藤、黒幕説の根拠が加わった。

結局、後藤は龍馬を同月24日越前に派遣し、紀州との交渉を終えたと龍馬の帰京を待たずして土佐に帰藩している。後藤は帰藩前夜『大政奉還』の建白書の副書に連名の寺村左膳や神山佐多衛、福岡藤次（孝弟）等、在京土佐藩幹部を集め、紀州との交渉で『土佐商会』が賠償金を受領する事となったと報告した。彼らは、伯父・吉田東洋の少林塾で共に学び、「新おこぜ組」と恐れられた土佐藩きっての俊秀であり、仲間であった。Ⅱ（下）に続く

# 第8回龍馬学会総会・研究発表会

テーマ

## 「夢新たに」



### 宣言

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会は、平成二十一年四月の発足から八年目を迎え、県内外から七十七人が参加して第八回研究発表会を開いた。テーマは「夢新たに」。国の内外で相次いで問題が起り、時代が混迷を深めている今、龍馬の人と思想を見つめ直そうとしたものだ。

下関市立歴史博物館の古城春樹さんの特別講演を挟んで、鹿児島、京都、地元高知の研究者六人による熱のこもった研究発表が行われ、私たちは多くのことを教わった。

来年は大政奉還から百五十年、龍馬没後百五十年でもあり、幕末維新への関心はますます高まってくるだろう。あらためて龍馬の生涯と思想に学び、社会や国のあり方を考えていきたい。

平成二十八年五月二十八日  
高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会



第8回現代龍馬学会総会は、高松清之・新事務局長（県立坂本龍馬記念館長）のあいさつから、前事務局長であり記念館前館長・森健志郎さんへの黙祷で始まった。そして気持ち新たに、テーマ「夢新たに」に添った発表を展開した。

薩長同盟150年の今年、薩摩からは網谷喜行さん、長州からは古城春樹さんという邂逅も興味深く、他に京都、地元高知と、7人の発表や講演は充実したものとなった。また、小学校校長・川崎さんの発表では、子ども龍馬フォーラムの参加者であり、発表内容に関わる高知市立二ツ橋小学校5年生の仁井田紘季さんも登壇。しっかりと意見を述べた。一般の方も含め約80人の参加者は、発表に耳を傾け、熱心な質問が相次いだ。引き続き行われた交流会でも、ひざを交えた話に盛り上がった。

来年の龍馬没後150年に向けて、学会の新たな歩みがここからまた始まった。



長宗我部火縄銃鉄砲隊の演武

### ① 網屋喜行氏

鹿児島県立短期大学名誉教授（吉田 本家の末裔）



「生誕200年！吉田東洋はどのように研究されてきたのか」  
— 坂崎紫瀾から、龍馬記念館の展示まで —

発表者は吉田家本家の末裔にあたり、過去の東洋研究および最近の状況を、昨年第6回大会での報告に続き、更に深く考察された。従

来「もとときち」とされていた東洋の通称（元吉）が、東洋の息子正春の談話（大正8年に朝日新聞掲載）によると「がんさち」とルビをふられていたことなど、新たな発見を紹介された。近年、龍馬記念館でも東洋や東洋周辺の事象をあつかった企画展を開催したことにも触れられ、東洋研究がさかんになることを期待されて報告を終えられた。

### 来賓挨拶

北村強・高知県教育次長は、「11月1日は高知県教育の日。胸のバッジはその日の龍馬さん」ロゴです。龍馬学会の開催は心強く、今後も長く続けていきたい」と語った後、『本学会で披露された貴重な研究成果が今後の研究の進展に貢献されることを祈念してやみません』という田村壮児・県教育長のメッセージの代読をされた。



高知県教育次長 北村 強 氏

横田寿生・高知市教育長は、「激動の時代の中を龍馬が強い志をもって生きたことは、現代の状況や子どもたちの育成にも通じます。高知市は、子どもたちが土佐の先人の進取自立の気風を学び、夢と希望、強い志を持って、心豊かにたくましく生きていく取り組みをしています。学会のますますの発展を願っています」と語った。



高知市教育長 横田 寿生 氏

### ② 竹内 土佐郎氏

現代龍馬学会理事



「明治維新に華と散った安田の志士たち」  
— 二十三士に想う —

元治元年、投獄された土佐勤皇党の盟主・武市半平太の釈放の嘆願と藩政改革を求めて、野根山の岩佐関所へ屯集した

237人のうち、これを主導したとして奈半利川原で斬首されたのが二十三士である。清岡道之助を首領とする彼らは、現在の田野町、安田町、北川村、安芸市、室戸市といった安芸郡下の郷土、庄屋、医師の人々だった。このなかから清岡治之助など安田町ゆかりの7人を取り上げ、実績を紹介した。

# 「薩長和解から盟約締結へー長州内部事情と語られない過程ー」



下関市立歴史博物館  
館長補佐  
古城 春樹 氏

## 長州内部事情

国の内部を見ていきたい。長州と一括りに言っても国が中で別れている。これは元々は長州の毛利家に渡されたものから内分知されたものになるが、実はそれぞれが独立した経済地となっている。

長州藩の近世史をやる方というのは大体萩藩・長府藩・徳山藩・岩国藩という言い方をしている。個別に見ていくが、幕末史になると何故かいきなり長州藩という言葉でまとめていくのでその辺りで混同が生じているようだ。

長州内部のそれぞれの藩も、とにかく仲が悪い。唯一、萩と清末が仲が良かったらどうかというところだが、これは長府と清末が仲が悪かったのでもっと上手く萩が寄つて行き、清末に財政的な援助をすることによって、清末は萩になびいていくという構図が出来上がる。とにかく長州と言いつつ内部ではずつと仲が悪かったということになる。そんな中、八月十八日の政変などを経て同じ目標（朝敵解消・京都復権）を持ちつつ段々近づいて行った。

## 第二次征長と薩長和解の端緒

政府は薩摩に周旋をお願いした。ここで政府的には薩摩との和解というのが進んでいるが、一方で武力を持っている諸隊の人たちはこれに対して反対を唱えているというのが慶応元年の状況であつたといえる。

その後、長府藩を窓口とした「薩長和解」への本格的な活動が始まる。慶応2年、長州藩の朝敵解消に向けた薩摩藩の活動を約す「薩長盟約」が結ばれる。以後、薩摩藩は盟約を履行。幕長間の避戦、朝敵解消に向けた活動を展開する。慶応3年ついに長州藩は朝敵の立場が解消され、京都へ戻る事となる。

## 薩長和解に関わる龍馬の評価

龍馬は何もしていないという方が多い。その時代にずっと関わっている時田少輔が慶応2年2月2日に龍馬の活躍を

「良馬東西奔走二而薩之意を長二、長之意を薩二告く、遂二御取結二相成」と残している。

龍馬は東奔西走して、薩の意を長に、長の意を薩に告げて、薩長和解を見事まとめたというのが実際の現場にいた人物の意見となる。

そしてもう一点。今後龍馬研究をされる方は、長州と言う一つのかたまりで見ると、今後は「萩」「長府」と分けた方が研究が進むのではないだろうか。

特に長府藩と龍馬の関係というのは相互支援、相互扶助関係と言えるほどのもので、その辺

を見てみると龍馬の手紙の解釈の仕方もある。然変わって来るのではないか。



特別講演風景

### 3 今井章博氏

土佐史談会会員

#### 「大町桂月の『伯爵後藤象二郎』余話」



大町桂月が「伯爵後藤象二郎」を著したのは大正三年十月であったが、坂崎紫瀾・安岡雄吉・福地源二郎など、複数人の稿本を経て成稿にいたったことが分かっている。報告ではその経緯に触れられ、東京の静嘉堂文庫に所蔵されている6種類の稿本から、イカルス号事件についての記述の差異など、新しい発見を紹介された。

来年には大政奉還から150年を迎えるが、維新の立役者であった後藤象二郎の行動に着目するうえで、「伯爵後藤象二郎」は貴重な資料となる。稿本の比較によって新たな事実が解明されることの重要性をあわせて指摘された。

### 5 川崎弘佳氏

高知市立一ツ橋小学校校長

#### 「子ども・龍馬フォーラムからスタートした『世界に折り鶴を送ろうプロジェクト』」



一ツ橋小学校では、平成26年夏休み子ども・龍馬フォーラムに参加した4年生が発起人となって仲間を集め、「平和を願って折り鶴を折り、ハワイに送りたい」と校長に相談したことがきっかけで、ハワイへ折り鶴を送ることになった。その経緯やハワイとの交流、現地の高校生が、パールハーバーにあるアリゾナ記念館で来館者に平和の折り鶴をプレゼントするなどの活動の輪が広がっていく現状を報告された。



意見を述べる  
仁井田紘季さん

### 4 宮川禎一氏

京都国立博物館学芸部別品管理室長

#### 「龍馬の刀をめぐる諸問題」



京都国立博物館が恩賜京都博物館であった昭和6年に、郷土坂本家の子孫・坂本弥太郎から寄贈された「坂本龍馬関係資料」は、

龍馬の資料として第一級の価値をもち、大部分が国の重要文化財に指定されている。報告のなかでは、龍馬ゆかりの「吉行」「理忠明寿」「備前長船勝光宗光」の3本の刀について、京博所蔵の「吉行」「理忠明寿」を中心に現状を紹介された。特に、最近報道された「吉行」の科学的調査の結果をふまえて、刃文や反りについて詳しく述べられた。

### 6 前田由紀枝氏

高知県立坂本龍馬記念館学芸課長

#### 「家族の肖像③『坂本家資料に見る坂本龍馬』」



平成27年6月、郷土坂本家につながる坂本家（札幌市）に長年保管されていた資料の全容を調査し、多くの未見資料を発見した。

坂本家資料の中に龍馬に関する貴重な記述が見つかり、その詳細を報告した。あわせて、昨年龍馬記念館で公開した、坂本家の子孫が所蔵する協差「備前長船勝光宗光」についても紹介した。調査の結果、今まで曖昧だった事柄が明確になったことが大きな成果であり、今後も継続して調査予定であることを述べて報告を終えた。

# 「007は二度死ぬ」

宮川 禎一

たまに衛星放送で古い映画を観るが、文化的にも面白い。マンネリが指摘される渥美清の寅さんシリーズも現在の眼で観直せば細部に日本各地のその時代の風景が映っていて興味深い。盆と正月向けの娯楽作品だったが、30年も経てば立派な歴史史料だ。沢田研二と田中裕子が恋をする『花も嵐も寅次郎』(1982年)では昭和五十年代の別府の賑わいや湯平温泉の様子が映っていて、大分県出身者としては感慨深いものだった。



坂本龍馬筆「霧島山登山図」  
(慶応2年12月4日乙女宛 京博蔵)

坂本龍馬ものでいえば1970年制作の『幕末』を観たが、中村錦之助が龍馬を、吉永小百合がおりょうを、三船敏郎が後藤象二郎を、仲代達矢が中岡慎太郎を演じていて重厚だ。司馬遼太郎の「竜馬がゆく」の影響を強く受けた映画だが、タイトルに「龍馬」の名前がないのは事情があったためか。

英国のジェームズ・ボンドシリーズのうち『007は二度死ぬ』(シヨン・コネリー主演、1967年)も最近観たが、荒唐無稽なストーリーはさておき、そこに映った日本の高度成長期の街の風景に心を動かされた。

ジェームズ・ボンドが海女のボンドガール(浜三枝)と和風の結婚式を挙げる様子や姫路城での大掛かりなロケなど見所が多い。日本の公安調査局のボス、タイガーター(丹波哲郎)も姿勢が良く性格が良い(コネリーは猫背)。

とくに魅かれたのは悪の組織がロケットの秘密基地を置いたのが霧島火山群の新燃岳の噴火口の内部だったところだ。その向こう側には高千穂峰もよく見えている。龍馬とおりが登った山だ。シヨン・コネリーが浜三枝の手を引いて火山に登るシーンは龍馬とおりがよりの姿そのものだったのである。映画制作者にそんな意図があったはずもないが、つい笑ってしまった。古い映画も二度観ると面白いという話である。

## コラム・龍馬のこと

### 「龍馬とジョン万次郎」

江上 英治

龍馬と万次郎のお二人、『出会った!』と云うことは史実記載からは出てこない。なぜなら、脱藩浪人で追われる身の龍馬、片や幕府監視のもとで行動せざるを得なかった万次郎、大手を振って会えるはずもない。ほぼ10歳違いの同郷でもあり、人生とは不思議なもので、船で遭難しなければ土佐の漁師で一生を終えていただろうし、龍馬も土佐に留まっていれば一介の下級武士か商人で幕を閉じていたに違いない。そんな二人が新しい日本の国造りに関わり合っていくのも、また不思議である。

龍馬は、万次郎取り調べの際に携わった河田小龍から現実の世界観を指南いただいたとされるが、人並み外れたバイタリティーと好奇心の龍馬が「是非会いたい!」と思うのも自然の成り行きかもしれない。江戸でも長崎でも二人の滞在時期は重なり合う。

もしも。ある夜、仲介人を通して料理旅館の片隅で会ったとする。

『万次郎さん、アメリカの議会とか選挙とはどんなものぞよ?』『アメリカは議会制民主主義の国家であり……。』『じゃ〜!大統領ちゅうんは、選ばれて決まるんかいの〜!』こんな会話が小部屋の片隅で囁かれたかと。人は少なからずまた聞きだけでは決意できるものではない。『百聞は一見にしかず』その夜、一晚中万次郎の言葉が龍馬の頭の中を駆け巡ったに違いない。

## “話してみるかよ”

### 「坂本龍馬、脱藩の道は果たして……」

坂本 世津夫



2年ほど前、土佐を脱藩して伊予にきた。現在は西予市に住んでいるが、西予市は梶原町と隣接し(城川町、野村町)、まさに坂本龍馬が脱藩した土地である。今回の脱藩は、愛媛県から故郷である高知県南国市のことを考える良い機会である。私の研究は「坂本龍馬」ではなく、長宗我部元親と関わりが深かった明智光秀、明智光春、石谷頼辰、斉藤内蔵助利三、春日局などの時代である。日本を今一度洗濯しなければならない時期に、何の因縁か、龍馬と同じく伊予に脱藩することになった。南予、宇和島周辺は美濃衆とのかかわりも深いようである。

先祖の言い伝えでは、我が先祖は坂本太郎五郎の出身地である山城の国ではなく、南予から来たというのである。確かに、山城の国からきたのであれば家紋は「桔梗」だろうが、我が家紋は「橘」である。しかし、南予には橘が非常に多い。そして、西予市野村町には昔、坂本城もあったとのことである。野村の酒文化は、土佐の酒文化とまるで同じであり、愛媛県内でも野村だけだそう。

野村町の隣の城川町には龍澤寺という曹洞宗の大きな寺があり、長宗我部元親は伊予を攻める時に滞在したようである(天正5年頃?)。また、城川町の土居には、紀貫之の墓というものもある。鬼北町や松野町にも坂本の姓は多い。そのような関係者が多い土地(南予)で、果たして坂本龍馬はどの道を選んだのか?

5月には、「龍馬は八幡浜から船に乗った」という発表もあった。